

平成29年度上半期 北海道病院事業改革推進プラン点検・評価書（案）

目 次

第1章	経営改善に向けた評価	P 1
第2章	病院別評価		
	（1）江差病院	P 7
	（2）羽幌病院	P 9
	（3）緑ヶ丘病院	P 11
	（4）向陽ヶ丘病院	P 13
	（5）北見病院	P 15
	（6）子ども総合医療・療育センター	P 17
第3章	全体評価	P 19

第1章 経営改善に向けた評価

(1) 収益の確保

プランにおける経営改善に向けた取組項目	平成29年度上半期における取組の自己点検・評価																													
<p>① 患者数の確保、新規患者の掘り起こし</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の医療機関、福祉機関、自治体等の関係機関との連携強化 医療連携専門員などの活動を通じた多方面への健康診断・人間ドックの受託の推進 地域の自治体・医療・福祉関係者や住民を対象とした講座や研修の開催、ホームページや広報誌等の各種媒体の活用などによる病院の広報活動の充実 	<p>平成29年度上半期における取組の自己点検・評価</p> <p><地域連携室の活動></p> <ul style="list-style-type: none"> 本年4月に、病院間の連携や入退院の支援・調整を担う地域連携室を全病院に設置した。 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 地域の企業等に健診実施の働きかけを行い、収益の増加を図った。(羽幌) 医療機関からの患者紹介の迅速な対応について、検討を行った。(10月から「紹介予約」の取組を開始)(緑ヶ丘) </div> <ul style="list-style-type: none"> 自立支援協議会の開催や保健所が開催する地域移行推進ワーキングに参加するなど、地域の医療・福祉資源との連携強化に努めた。(緑ヶ丘) 患者の地域移行を促進し、精神疾患を有する患者の在宅生活維持を支援するため、院内、院外を問わず患者等から生活相談、医療相談を受け付けており、必要に応じて関係機関と連携を進めた。(緑ヶ丘) 紹介元医療機関との連絡調整のほか、医療機関やサービス事業所の職員のスキルアップを目的とした専門支援事業の実施など、地域の関係機関との連携を図った。(子ども) <p><健診実績> (単位：件)</p> <table border="1" data-bbox="936 836 1559 1008"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th colspan="2">健診実績</th> <th colspan="2">ドック実績</th> </tr> <tr> <th>H28</th> <th>H29上期</th> <th>H28</th> <th>H29上期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>江差</td> <td>930</td> <td>353</td> <td>22</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>北見</td> <td>82</td> <td>9</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>羽幌</td> <td>110</td> <td>70</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,122</td> <td>432</td> <td>22</td> <td>23</td> </tr> </tbody> </table> <p>※北見病院は、心臓ドックを対象としているが、担当医が1名となり、入院・外来診療を主としているため、休止中。</p> <p><広報活動></p> <ul style="list-style-type: none"> 出前講座・地域公開講座の開催 <ul style="list-style-type: none"> 江差：子どもの健康セミナー 3回 羽幌：出前講座 1回 緑ヶ丘：地域公開講座 3回 子ども：出前講座・公開講座 10回 各病院の季刊誌等の発行 ホームページ更新による地域等への情報発信 Facebook、Twitter等を活用した道立病院のPRの実施 道立病院局ホームページのリニューアルによる見直し(外部サーバーの活用等) 	病院名	健診実績		ドック実績		H28	H29上期	H28	H29上期	江差	930	353	22	23	北見	82	9	-	-	羽幌	110	70	0	0	合計	1,122	432	22	23
病院名	健診実績		ドック実績																											
	H28	H29上期	H28	H29上期																										
江差	930	353	22	23																										
北見	82	9	-	-																										
羽幌	110	70	0	0																										
合計	1,122	432	22	23																										
<p>② 病院が有する機能の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 高額医療機器の利用増や周辺医療機関との共同利用の推進 	<p><共同利用の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> 江差：CT 68件、MRI 2件 (勤医協江差診療所、上ノ国診療所、乙部国保病院など) 																													

③ 適切な診療報酬の獲得

- 診療報酬請求に関する外部点検や、請求事務委託業者との意見交換の実施による請求漏れの改善及び診療報酬改定や、病院の機能見直し等に対応した新たな施設基準・加算取得の検討

<診療報酬請求の適正化対策>

- ⑧各病院に診療報酬請求の適正化対策を行う委員会等を設置し、取組を進めているほか、診療報酬請求に関する外部点検を羽幌病院（11～1月）及び江差病院（1～3月）において実施する予定。

病 院	委 員 会 等 名 称
江差	北海道立江差病院診療報酬請求適正化対策委員会
北見	北海道立北見病院診療報酬請求漏れ対策委員会
羽幌	道立羽幌病院診療報酬請求漏れ対策委員会
緑ヶ丘	運営効率化部会
向陽ヶ丘	増収対策委員会
コドモックル	院内体制検討会議・診療報酬請求適正化ワーキンググループ

<新たな施設基準・加算取得>

- 平成29年度上半期実績（主なもの）

病院名	名 称	新施設基準による年間 収益増見込額(千円)
江差	地域包括ケア入院医療管理料1	7,920
	下肢末梢動脈疾患指導管理加算	357
北見	認知症ケア加算2	102
羽幌	輸血管理料Ⅱ	10
	輸血適正使用料加算	6
緑ヶ丘	抗精神病特定薬剤治療指導管理料	30
	精神科ショート・ケア(小規模なもの)	118
向陽ヶ丘	療養環境加算	4,811

④ 道立病院の利用促進に向けた取組の充実

- 患者満足度調査結果を基にした患者サービスの向上

<患者満足度調査>

- 各病院では、部門ごとに実施し、結果を前年度と比較するとともに、院内で共有し、満足度が低いと判断される項目は、改善可能なものから見直しており、今年度も患者サービスの向上に努めるとともに、調査結果の処理状況を点検し、改善の有無を検証する。
 - ・実施状況～上期：北見、コドモックル
下期：江差（11～1月）、羽幌（10～11月）、緑ヶ丘、向陽ヶ丘（10～12月）
- ⑨外来患者の呼び出しが聞き取りにくいとの意見があり、スピーカーを新設し、呼び出しが聞き取りやすいよう対応した。（緑ヶ丘）
- 病院食嗜好調査の実施：1回（子ども）

- 各病院の機能や役割に関する住民理解の促進

<地域活動への参加状況>

- 専門支援事業（20回）・療育キャンプ（2回）実施のための調整を行うなど、医療・福祉機関、自治体等との連携を図った。
また、入院児童・保護者の生活体験の充実と地域住民との交流を目的とした夏祭り花火大会（夜店、盆踊り、花火）を開催(7/21)した。（子ども）

(2) 費用の縮減

プランにおける経営改善に向けた取組項目	平成29年度上半期における取組の自己点検・評価																								
<p>① 無駄のない適正な管理経費の執行による医業費用の節減</p>	<p><管理経費等の節減></p> <ul style="list-style-type: none"> ○スケールメリットを生かした本庁一括契約の継続実施 <ul style="list-style-type: none"> ・医事業務、医師事務作業補助、院内保育所業務、電気工作物保安業務 ○療養環境に十分配慮した各病院による光熱水費等の節減 <ul style="list-style-type: none"> ・節水システム、間引き照明の実施等 ・輸血製剤の廃棄率減少 ○定期点検の適正実施による医療機器の長寿命化 																								
<p>② 費用対効果や必要性、機器導入後の保守も見据えた医療機器等の整備</p>	<p><整備状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療機器等の整備について、全国の導入事例における実勢価格情報を収集し、入札の執行に活用。 																								
<p>③ 患者負担の軽減、費用の縮減に結びつく後発医薬品の採用拡大</p>	<p><後発医薬品の使用状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ○後発医薬品使用割合は、厚生労働省が平成25年に策定した「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」に基づき、各病院ごとに数量シェアを算出した結果、上期実績は77.1%であった。 ○なお、平成27年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針」（いわゆる骨太の方針2015）に基づき、平成32年度末までに数量シェアを80%に近づけていく。 <table border="1" data-bbox="947 930 1545 1177"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>H29目標</th> <th>上半期実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>江 差</td> <td>76.0%</td> <td>82.3%</td> </tr> <tr> <td>北 見</td> <td>72.0%</td> <td>79.4%</td> </tr> <tr> <td>羽 幌</td> <td>78.0%</td> <td>82.9%</td> </tr> <tr> <td>緑ヶ丘</td> <td>70.0%</td> <td>73.5%</td> </tr> <tr> <td>向陽ヶ丘</td> <td>67.0%</td> <td>75.8%</td> </tr> <tr> <td>コドモックル</td> <td>72.0%</td> <td>73.6%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>72.5%</td> <td>77.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p><情報の活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各病院では、後発医薬品への積極的な切替えについて、使用実績データを活用しながら、薬事委員会で検討している。 	病院名	H29目標	上半期実績	江 差	76.0%	82.3%	北 見	72.0%	79.4%	羽 幌	78.0%	82.9%	緑ヶ丘	70.0%	73.5%	向陽ヶ丘	67.0%	75.8%	コドモックル	72.0%	73.6%	計	72.5%	77.1%
病院名	H29目標	上半期実績																							
江 差	76.0%	82.3%																							
北 見	72.0%	79.4%																							
羽 幌	78.0%	82.9%																							
緑ヶ丘	70.0%	73.5%																							
向陽ヶ丘	67.0%	75.8%																							
コドモックル	72.0%	73.6%																							
計	72.5%	77.1%																							

(3) 経営基盤の強化

プランにおける経営改善に向けた取組項目	平成29年度上半期における取組の自己点検・評価																																
<p>① 診療機能維持に必要な医師等医療従事者の確保</p>	<p><人材確保の取組（医師・看護師・薬剤師等医療従事者確保の共通の取組）> ① 全ての選考職で年齢要件緩和（58歳以下）、通年募集・随時試験実施 （5職種実施：看護師、薬剤師、放射線技師、言語聴覚士、臨床工学技士） ○インターネット（HP、Facebook、Twitter等）による医師・看護師・薬剤師等の募集活動 ○民間企業等主催の説明会、道内外での医師・看護師・薬剤師募集活動 （医師：東京1回、大阪1回 看護師：札幌3回 薬剤師：道内2大学、道外1大学） ○民間人材紹介事業者を活用した募集・契約～医師6社、看護師6社、薬剤師4社 ○医師会・看護協会・薬剤師会等関係団体との連携や新聞（2紙）・情報誌等（2誌）による募集</p> <p><医師確保対策> ○道内3医育大学への医師派遣要請 ○自治医科大学卒業医師（義務年終了および義務年8～9年目）への招聘活動 ○医師本人の道立病院現地見学（民間人材紹介事業者を介し1名） ② 新専門医制度（H30～）対応（羽幌病院で新たに総合診療科専門医養成プログラムを策定）</p> <p>[医師の処遇改善、勤務環境改善など] ① 指導医手当の新設 ○医学研究調査手当の継続 ○医師事務作業補助者の配置（12名）</p> <p>【医師配置状況】 （H29.9月末現在）</p> <table border="1" data-bbox="947 930 2051 1066"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>江差</th> <th>北見</th> <th>羽幌</th> <th>緑ヶ丘</th> <th>向陽ヶ丘</th> <th>コトモックル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定数</td> <td>17</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>43</td> <td>93</td> </tr> <tr> <td>現員数</td> <td>11</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>5</td> <td>38</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td>▲6</td> <td>▲1</td> <td>▲6</td> <td>0</td> <td>▲1</td> <td>▲5</td> <td>▲19</td> </tr> </tbody> </table> <p><看護師確保対策> ○看護師確保（44名） ・養成校主催の合同就職説明会での職員募集活動（3校） ・民間人材紹介事業者を介した看護師確保（3名） ・民間の看護師就職情報サイトを活用した看護師募集 ・道立病院の視察・勤務体験実施（17回） ○看護師養成校訪問（40校） ・道内外看護師養成校へのダイレクトメール発送 ・看護師養成校に対し、卒業生からのメッセージ配布 ② 採用試験実施回数の拡大（随時試験：応募の都度設定） ○「めざせ看護師！ 檜山塾（道立江差高等看護学院受験者向けセミナー）」（7月）</p>	区分	江差	北見	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コトモックル	計	定数	17	6	12	9	6	43	93	現員数	11	5	6	9	5	38	74	差引	▲6	▲1	▲6	0	▲1	▲5	▲19
区分	江差	北見	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コトモックル	計																										
定数	17	6	12	9	6	43	93																										
現員数	11	5	6	9	5	38	74																										
差引	▲6	▲1	▲6	0	▲1	▲5	▲19																										

[看護師の処遇改善、勤務環境改善など]

- 病棟支援専門員の配置（6名）
- 新人看護職員のキャリアサポートによる離職防止対策（30名）
- 夜勤専従の実施（実人数2名）

【 看護師配置状況 】

(H29.9月末現在)

区 分	江差	北見	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コトモックル	計
定 数	119	71	44	79	57	210	580
現員数	86	63	37	75	55	207	523
差 引	▲ 33	▲ 8	▲ 7	▲ 4	▲ 2	▲ 3	▲ 57

<薬剤師・その他の医療技術者確保対策>

- 薬剤師確保（1名）、臨床工学技士確保（1名）
 - ・ 職能団体への働きかけ
 - ・ 道内外薬科大学への働きかけ（薬科大学訪問：道内2大学、道外13大学）
 - ・ 通年募集・随時試験の実施、定期試験会場の道外会場拡大（仙台会場新設）
 - ・ 全ての選考職で年齢要件の緩和（59歳未満）

[薬剤師・その他の医療技術者処遇改善、勤務環境改善など]

㊦臨床工学技士の調整額措置範囲拡大（コトモックルのみから新たに北見病院を対象）

【 薬剤師配置状況 】

(H29.9月末現在)

区 分	江差	北見	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コトモックル	計
定 数	3	3	2	3	2	4	17
現員数	2	3	1	2	2	4	14
差 引	▲ 1	0	▲ 1	▲ 1	0	0	▲ 3

【 その他の職種（現員数） 】

(H29.9月末現在)

区 分	江差	北見	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コトモックル	計
放射線技師	4	4	3	2	2	8	23
検査技師	5	4	3	3	2	12	29
臨床工学技士	3	4	2	-	-	3	12
理学療法士	2	-	2	-	-	15	19
作業療法士	1	-	-	6	2	9	18

② 病院経営に精通した人材の育成、登用の検討

<取組内容>

- 長年にわたり、自治体病院の事務長や全国の自治体病院で構成する団体の部会長などを歴任した、病院事務に精通した者を非常勤職員として採用し、各病院に対して診療報酬の加算や経費の縮減、病院運営のあり方などについて、指導・助言を行っている。

(4) 職員の経営改革意識の向上

プランにおける経営改善に向けた取組項目	平成29年度上半期における取組の自己点検・評価
① 管理者による経営方針の徹底と職員への経営情報の共有	<p><経営方針の策定></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域における医療サービスの提供と、公営企業としての経営の継続を両立させるため、道立病院局が一体となった取組を策定した。 <p><職員への経営情報の共有></p> <ul style="list-style-type: none"> ○病院職員一人一人に経営方針を徹底するとともに、各病院の院長、総看護師長、事務長で構成する「経営推進会議」を設置し、6月及び9月の2回開催しており、経営状況について情報共有を図っている。
② 経営改革の実現に向けて、職員の士気や意欲を高める取組の検討	<p><経営改革意識の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各病院の事務担当者を対象として、プランの推進を踏まえた今後の病院経営に係る意識を向上させるため、4月に会議を開催した。 ○病院事業の経営改善に向け、収益確保に向けた様々な取組の実効性を高めるため、8月に研修会を開催した。 ㊦北海道病院事業推進委員会に各病院の院長、総看護師長等を出席させ、外部委員の意見を直接伺うとともに、それぞれの病院経営に活かす取組を始めた。

● 委員会点検・評価

- 収益の確保について、各病院に診療報酬請求の適正化対策を行う委員会等を設置したことは評価する。今後とも、診療報酬請求の適正化と新たな施設基準・加算取得に努めること。
- 本年度から全病院に地域連携室を設置し、患者確保の取組を進めているが、患者数の顕著な増加に結びついていないため、医療機関を含む関係機関と更なる連携強化に努めること。
- 経営基盤の強化について、医師や看護師などの医療従事者の不足は、医療の確保、病院経営における医業収益に大きく影響することから、欠員の解消に向けた取組を進めるとともに、病院経営の専門的な知識を有する外部人材の採用などについて検討すること。
- 総合診療医の専門研修プログラムを策定したことは評価する。今後、広く周知を行い、専門医の確保に努めること。
- 職員の経営改革意識の向上について、本委員会に各病院の管理職である院長、総看護師長等が出席し、経営改革に向けた取組を進める姿勢は評価するが、プランの推進においては、職員一人一人の経営意識の一層の向上が必要となることから、職員の士気や意欲を高める取組を検討すること。
- 各病院において経営状況を情報共有しているが、今後は、内容を分析した上で課題を掘り起こし、必要な対応を行うこと。

第2章 病院別評価

(1) 江差病院

プランの推進を図る取組項目	平成29年度における取組方針	上半期の自己点検・評価
① 患者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> 回復期患者の受入体制の充実に向けて、地域包括ケア病床の整備及び継続を目指す。 接遇研修の実施や患者満足度調査等の結果を踏まえて、職員に対して接遇の重要性への理解を促し、院内のサービスを向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 届出に向けた体制・実績づくりを行い、8月から地域包括ケア病床の運用を開始した。ベッド調整など患者の受入に取り組んでいるが、病床利用率は目標を下回っている。 次の接遇研修を6月及び7月に実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ①全職員を対象とした外部講師による研修 ②看護職員等を対象とした患者に対するコミュニケーション能力向上研修
② 組織の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 経営状況を全職員が共有するため、毎月の収支の状況を院内会議等において周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 経営推進会議において、毎月、収支状況等を職員に周知し、経営に対する意識付けを行った。
③ 人材確保と人材育成機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> 看護師の欠員を解消するため、看護学生等の職場体験や看護実習、病院見学の受入れを継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 隣接する江差高等看護学院の実習を受け入れたほか、近隣中学校及び高校の職場体験の受入を行った。また、振興局が主催した看護師を目指す高校生や社会人を対象としたセミナーにおいて、現役看護師の講話や施設見学を実施した。
④ 地域との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> 管内で開催されている連携会議等への医療連携専門員の積極的な参画により、地域との連携強化のもと入退院支援や相談業務を行い、患者の確保を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携室の職員が、南檜山圏域や江差町の連携会議に定期的に参加し、紹介患者の確保のため、他医療機関や福祉事業者と顔の見える関係づくりに努めた。また、近隣公立病院事務長等意見交換会を立ち上げることにより、管内国保病院事務長及び保健所職員との情報交換・協議の場を設けた。
⑤ 経営の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 実施した医療行為の診療報酬を適切に請求するため、医師、看護師、医事業務委託業者などと連携し、院内会議において情報共有を図りながら、査定率の縮減に努めるとともに、平均在院日数等の調整などで診療点数の見直しに努める。 医療費に係る患者相談に適切に対応し、出張徴収の定期的実施により未収金の発生防止と減少に努める。 後発医薬品の採用率向上により、費用縮減と患者負担の軽減を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬請求適正化対策委員会を設置し、査定減や請求漏れ防止や、新たな診療報酬の届出など、経営改善に関する事項について委員会で検討することとしたほか、平均在院日数の短縮により入院基本料を変更し、新たに加算の届出を行った。 患者からの支払いに関する相談に随時対応し、入院・外来に係る年度内の未収金の額が前年度より減少した。 薬事委員会において、後発医薬品15品目の採用拡大を図った。

平成29年度 上半期実績

自己点検・評価

〈 収支状況 〉

(単位：百万円)

区 分	H29年間目標 A	H29上期実績 (推計値) B	H28上期実績 (推計値) C	対H28比 B / C
収 益 (A)	1,987	737	913	80.7 %
医 業 収 益	1,767	609	776	78.5 %
うち入院収益	958	255	392	65.1 %
うち外来収益	762	331	360	91.9 %
医 業 外 収 益	212	125	131	95.4 %
費 用 (B)	2,992	1,357	1,356	100.1 %
医 業 費 用	2,829	1,275	1,274	100.1 %
うち医薬材料費	393	130	175	74.3 %
医 業 外 費 用	155	76	80	95.0 %
収 支 差 (C=A-B)	▲ 1,005	▲ 620	▲ 443	—
1 日 平 均 入 院 患 者 数	97.5 人	55.8 人	82.8 人	67.4 %
1 日 平 均 外 来 患 者 数	324.5 人	288.2 人	303.7 人	94.9 %

〈 経営指標及び数値目標 〉

区 分	指 標	H29年間目標	上半期目標	上半期実績	達成率	
経営指標	病床利用率	全体	65.9 %	65.9 %	36.7 %	55.7 P
		一般	67.1 %	67.1 %	31.9 %	47.5 P
		精神	62.5 %	62.5 %	50.3 %	80.5 P
	医業収支比率		62.5 %	62.5 %	47.7 %	76.3 P
	1 日 平 均 患 者 数	入院	97.5 人	97.5 人	55.8 人	57.3 %
		外来	324.5 人	324.5 人	288.2 人	88.8 %
	1 日 一 人 当 た り 収 益	入院	26,925 円	26,925 円	24,971 円	92.7 %
		外来	9,630 円	9,630 円	9,266 円	96.2 %
	医薬材料費対医業収益比率		22.2 %	22.1 %	21.4 %	103.3 P
	後発医薬品使用割合		76.0 %	76.0 %	82.4 %	108.4 P
機能指標	紹介患者件数	1,420 件	710 件	625 件	88.0 %	
	地域包括ケア病床利用率	70.0 %	70.0 %	34.8 %	49.7 %	

【患者数】

- 入院は、循環器科において3月の常勤医交代時に長期入院患者の退院を促進したこと、また、消化器科において常勤医が1名減となったことにより患者数が大幅に減少し、対前年度比67.4%となった。
- 外来は、整形外科や外科で昨年度を上回ったが、循環器科及び消化器科の減により、対前年度比94.9%となった。

【収 益】

- 入院は、循環器科及び消化器科の患者減少により、対前年度比65.1%となった。
- 外来は、整形外科で前年度を上回ったが、循環器科及び消化器科の患者減により、対前年度比91.9%に止まった。

【費 用】

- 患者数の減により、医薬品等の購入は減少したが、電子カルテの賃借料等が増加したため、費用全体は前年度並みとなった。

【経営指標及び数値目標達成に向けた取組】

- 後発医薬品使用割合は上半期実績で82.4%と上半期目標を達成しており、今後も年間目標を達成するよう努めていく。
- 地域包括ケア病床について、関係職種が連携し、ベッド調整を行うとともに、周辺町及び医療機関に案内文書を送付するなど、病床利用率の向上に努めたが、上半期実績で34.8%と目標を大きく下回った。今後は、地域連携室職員により関係医療機関を訪問するなど、更なる病院のPRに努める。

● 委員会点検・評価

- 内科医及び外科医が確保できない中、地域の医療需要に応えられるよう総合診療医の確保を検討すること。
- 医師の欠員により収益が確保できていないため、様々な取組を行うことにより、患者の増加や更なる費用の縮減に努めるなど、収支差を意識した経営に取り組むこと。
- 8月から運用を開始した地域包括ケア病床について、病床利用率は目標と大きく乖離していることから、地域連携室を積極的に活用し、周辺医療機関・福祉施設等へのPRを強化するなどして、年間目標の達成に努めること。
- 地域医療構想調整会議の場などを活用しながら、周辺医療機関との一層の連携強化に努めること。

(2) 羽幌病院

プランの推進を図る取組項目	平成29年度における取組方針	上半期の自己点検・評価
① 患者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病に対し必要性の高い適切な検査を行うとともに、当院の特徴的な取組である介護者支援短期入院や訪問診療に引き続き取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援短期（レスパイト）入院は、患者数6名、入院実日数48日であり、前年度上半期（12人）と比較して半分であるが、退院支援連携会議等やケアマネなどと情報交換をしながら、利用促進に取り組んでいる。 ・訪問診療は、延べ204人であり、グループホーム等入所者への訪問診療が3カ所増えたことから、前年度の年間実績（延べ272人）を上回る見込みで推移している。
② 組織の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・経営状況を全職員が共有するため、毎月の収支の状況を院内会議等において周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週の幹部会議、毎月の拡大幹部会議、院内会議で周知しており、職員全体で共有している。
③ 人材確保と人材育成機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズセミナーの実施：子どもたちへ将来、地域で医療、看護の職に就いてもらえるよう病院の業務を体験してもらう。 ・地元の中高生に病院での体験実習を行う。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度からスタートする新専門医制度を見据え、地域で活躍する総合診療医の専門研修プログラムを策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月に準備委員会を立ち上げ、12月2日（土）実施に向け準備中である。 ・羽幌高校インターンシップの受け入れを行い、ベッドメイキング、血圧測定、車いすの操作などの医療体験を実施した。（参加者6名 H29.6.19～6.21） <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・総合診療医を受け入れる体制整備について準備中である。
④ 地域との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者確保を目指すため、地域連携室を中心に関係機関への周知及び連携を強化し、入院患者を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月、5月に周辺医療機関・市町村を33カ所、9月に周辺医療機関・福祉施設等を9カ所訪問し、情報交換しながら当院に対する患者紹介を働きかけた。（紹介件数：294件）
⑤ 経営の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア病床（12床）のベッドコントロール及び運営カンファレンスを効果的に運用し、病床利用率の向上を目指す。 ・毎月、査定状況を確認し、査定率の改善の取組により、収益の改善と費用の縮減（医薬材料の効率的な使用）を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週金曜日に地域ケアベッドコントロール会議、月1回地域包括ケア病床運営カンファレンスを実施し、利用向上に努めた。 ・6月から診療報酬請求漏れ対策委員会を月1回開催し、請求漏れをなくすことや査定の減少に努めている。

平成29年度 上半期実績					自己点検・評価			
< 収支状況 > (単位：百万円)					【患者数】 ・入院は、平成28年6月に運用を開始した地域包括ケア病床の患者増に伴い、対前年度比116.0%となったが、1日平均患者数の目標は達成していない。 ・外来は、外科・整形外科の常勤医師が退職し、非常勤医師による診察になったことにより、対前年度比83.6%となった。 【収益】 ・入院は、平成28年6月に運用を開始した地域包括ケア病床による患者増により、対前年度比121.7%となった。 ・外来は、外科・整形外科の常勤医が退職し、非常勤医師による診察になったこと、また、小児科医の病休による外来患者の減により、対前年度比81.3%となった。 【費用】 ・前年度は、高額薬剤（C型肝炎）の購入による影響のため、医薬材料費が対前年度比81.5%となり、費用全体で対前年度比93.5%となったが、引き続き、費用の縮減に努めていく。 【経営指標及び数値目標達成に向けた取組】 ・医薬材料費対医薬収益比率は25.8%で達成率は98.7Pとなっており、今後、地域の企業等に健診実施の働きかけを行い、収益増を図るなど、目標の達成に努める。 ・後発医薬品使用割合は上半期実績で82.9%と上半期目標を達成しており、今後も年間目標を達成するよう努めていく。			
区 分	H29年間目標 A	H29上期実績 (推計値) B	H28上期実績 (推計値) C	対H28比 B/C				
収 益 (A)	1,058	471	506	93.1%				
医 業 収 益	895	376	410	91.7%				
うち入院収益	308	146	120	121.7%				
うち外来収益	558	221	272	81.3%				
医 業 外 収 益	161	94	87	108.0%				
費 用 (B)	1,808	792	847	93.5%				
医 業 費 用	1,692	737	779	94.6%				
うち医薬材料費	228	97	119	81.5%				
医 業 外 費 用	110	54	56	96.4%				
収 支 差 (C=A-B)	▲ 750	▲ 321	▲ 341	—				
1日平均入院患者数	27.4人	26.0人	22.4人	116.0%				
1日平均外来患者数	200.0人	166.0人	198.6人	83.6%				
< 経営指標及び数値目標 >								
区 分	指 標	H29年間目標	上半期目標	上半期実績	達成率			
経営指標	病床利用率	一般	60.9%	60.9%	57.8%	94.9 P		
	医薬収支比率		52.9%	52.9%	51.1%	96.6 P		
	1日平均患者数	入院	27.4人	27.4人	26.0人	94.9%		
		外来	200.0人	200.0人	166.0人	83.0%		
	1日一人当たり 収益	入院	30,827円	30,827円	30,640円	99.4%		
		外来	11,444円	11,444円	10,724円	93.7%		
		医薬材料費対医薬収益比率	25.5%	25.5%	25.8%	98.7 P		
	後発医薬品使用割合	78.0%	78.0%	82.9%	106.3 P			
機能指標	紹介患者件数	610件	305件	294件	96.4%			
	地域包括ケア病床利用率	70.0%	70.0%	50.5%	72.1 P			

● 委員会点検・評価

- 新専門医制度を見据え、地域で活躍する総合診療医の専門研修プログラムを策定したことは評価する。
- 地域包括ケア病床について、入院患者数の増加に貢献しているが、病床利用率は低調であることから、その向上に努めること。
- 外来患者数の減少に歯止めがかからないことから、地域連携室を活用し、医療機関や福祉施設等に患者紹介を働きかける範囲を拡大するなど、患者確保を図ること。
- 地域医療構想調整会議の場などを活用しながら、周辺医療機関との一層の連携強化に努めること。

(3) 緑ヶ丘病院

プランの推進を図る取組項目	平成29年度における取組方針	上半期の自己点検・評価
① 患者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ホームページによる情報発信や、地域公開講座の開催により、地域における精神科医療への理解促進と当院の知名度の向上を図り、患者の確保に繋げる。 他の医療機関では実施していない療法に係る患者受入の推進に取り組み、件数の増加に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの掲載ルールを院内で定め、各部門にホームページの掲載ができるようにした。また、7月から月1回のペースで地域公開講座を開催している。 地域公開講座参加者数：7月 42人、8月 88人 9月 85人 管内医療機関を訪問し、修正型電気けいれん療法等の適用となる患者の当院への紹介を依頼するとともに、地域の精神医療の現状等について、活発な意見交換を行い、地域との連携強化を図ることができた。
② 組織の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 経営状況を全職員が共有するため、毎月の収支の状況を院内会議等において周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月開催する院内会議、経営推進会議等において、収支の状況、プランの進捗状況等を報告し、課題や今後の方向性を共有することで、協力体制の強化やモチベーションの向上を図っている。
③ 人材確保と人材育成機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> 電子カルテの導入検討などの病院の近代化や、関係医療機関との連携を進め、新たな専門医制度に対応した専攻医の受入体制を整備し、医師の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子カルテの導入に向けて委員会を立ち上げ、他院の状況を視察したほか、業者から見積もりを徴し、システム診断を行うなど、導入に向けた検討を進めている。
④ 地域との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携室を積極的に活用し、地域の医療ニーズを的確に把握し、民間医療機関や在宅精神サービス機関等との機能連携を図りながら、患者の確保を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 退院支援会議、保健所と地域の患者や退院予定の患者に係る情報交換を行う保健所等障害福祉会議、処遇困難患者に係るケース検討会議を開催し、地域の社会資源と密接に連携し患者を確保している。 会議名：退院支援会議 9回（主催：当院） 保健所等障害福祉会議 18回（主催：保健所等） ケース検討会議 27回（主催：当院等）
⑤ 経営の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 3病棟の稼働率向上に努め、1、2病棟の後方病床としての機能を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たに担当者を中心とした運営効率化部会を設置し、算定可能な診療報酬の体制整備を含めて協議した。 医療機関からの紹介による入院患者の獲得に向けて、管内医療機関を訪問し、修正型電気けいれん療法について周知を行ったほか、入院患者のベッドコントロールを実施し、救急病棟の稼働率向上に努めた。

平成29年度 上半期実績

自己点検・評価

〈 収支状況 〉

(単位：百万円)

区 分	H29年間目標 A	H29上期実績 (推計値) B	H28上期実績 (推計値) C	対H28比 B/C
収 益 (A)	1,269	561	631	88.9 %
医 業 収 益	1,182	512	579	88.4 %
うち入院収益	806	315	392	80.4 %
うち外来収益	359	189	178	106.2 %
医 業 外 収 益	84	45	48	93.8 %
費 用 (B)	1,946	904	899	100.6 %
医 業 費 用	1,901	880	874	100.7 %
うち医薬材料費	76	36	37	97.3 %
医 業 外 費 用	42	20	20	100.0 %
収 支 差 (C=A-B)	▲ 677	▲ 343	▲ 268	—
1日平均入院患者数	100.2人	66.0人	95.5人	69.1 %
1日平均外来患者数	170.0人	167.1人	173.6人	96.2 %

〈 経営指標及び数値目標 〉

区 分	指 標	H29年間目標	上半期目標	上半期実績	達成率	
経営指標	病床利用率	73.1 %	73.1 %	48.1 %	65.8 P	
	精神					
	医業収支比率	62.2 %	62.2 %	58.1 %	93.4 P	
	1日平均患者数	入院	100.2人	100.2人	66.0人	65.8 %
		外来	170.0人	170.0人	167.1人	98.3 %
	1日一人当たり 収益	入院	22,049円	22,049円	26,114円	118.4 %
		外来	8,659円	8,659円	9,099円	105.1 %
	医薬材料費対医業収益比率	6.4 %	6.4 %	7.1 %	90.6 P	
	後発医薬品使用割合	70.0 %	70.0 %	73.4 %	104.9 P	
機能指標	訪問看護件数	8,150件	4,075件	4,658件	114.3 %	
	デイケア件数	2,850件	1,425件	1,849件	129.8 %	
	精神科救急病棟病床利用率	94.0 %	94.0 %	94.9 %	101.0 P	

【患者数】

- 入院は、長期入院患者の退院促進により、4月は1日平均患者数が上期実績より10人程度少なかったものの、その後は徐々に増加し、上期実績で66.0人となったが、対前年度比は69.1%であった。
- 外来は、小児精神の常勤医1名が非常勤となったことにより伸び悩んでおり、対前年度比96.2%となった。

【収 益】

- 入院は、短期入院患者の割合が増加したことにより、1日一人当たり収益は増加したものの、患者数の減により対前年度比80.4%となった。
- 外来は、患者数が前年より減少したものの、訪問看護件数の増加により1日一人当たり収益が増加したため、対前年度比106.2%となった。

【費 用】

- 医薬材料費は、後発医薬品使用割合が73.4%と上半期目標を達成したことにより、対前年度比97.3%となったものの、費用全体は前年度並みとなった。

【経営指標及び数値目標達成に向けた取組】

- 訪問看護件数は、病棟看護師の応援により体制を強化したため、上半期目標を達成した。
- デイケア件数は、積極的な活用を促したところ、上半期目標を達成した。
- 精神科救急病棟病床利用率は、入院患者を優先的に振り分けるなど、ベットコントロールの結果、94.9%となり、目標を達成した。

● 委員会点検・評価

- スーパー救急病棟の利用率維持とともに、継続して診療内容の充実による診療単価の増に努めること。
- 圏域内医療機関や保健所等関係機関との連携を密にし、地域から求められる病院機能について検討すること。

(4) 向陽ヶ丘病院

プランの推進を図る取組項目	平成29年度における取組方針	上半期の自己点検・評価
① 患者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> 退院後の在宅医療の機能を充実するため、訪問看護の推進やデイケア利用者の確保を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問看護は、地域連携科の体制強化により上半期目標を上回っているが、デイケア利用者は上半期目標を下回っており、デイケアメニューの充実が課題となっている。
② 組織の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 経営状況を全職員が共有するため、毎月の収支の状況を院内会議等において周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 経営推進会議において、毎月の収支状況及び前年度対比率を説明することにより、職員に対する経営に関する情報共有を図っている。
③ 人材確保と人材育成機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ホームページで地域の魅力を発信する。 院内研修を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> 医師募集欄や地域の魅力を発信するため、オホーツク情報欄の追加などホームページの変更を行った。 院内研修の実施状況 6/14 医療安全研修会(28名) 6/20 精神保健福祉法に関する研修会(33名) 7/14 認知症疾患医療研修会(68名) 9/13. 19 医療安全KYT研修(68名) 9/20 救急研修(22名)
④ 地域との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> 病院ホームページの充実や地域連携室を積極的に活用し、民間医療機関やグループホーム、在宅精神サービス機関等との機能連携を図りながら、患者の確保を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページで認知症医療疾患センターにおける研修会のPRを行った。(対象者：医療機関、関係機関及び地域住民) 各市町健康祭りに参加し、認知症医療疾患センターで実施しているもの忘れ外来のPRを行った。 地域連携室では、他院からの医療・福祉に関する相談などを受けて、入院患者の受入調整を行った。
⑤ 経営の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、経営推進会議後に行われる診療報酬査定対策委員会を実施するなど、査定率の改善の取組により、収益の改善を図る。 費用縮減のため、医薬材料の効率的な使用(後発医薬品購入品目の増を含む。)を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 査定内容を説明し、その要因や原因の情報共有を図った。 医薬材料の効率的な使用を図った。 H28：321品目中108品目 33.6% H29：288品目中106品目 36.8% 品目数は昨年度より2品目少なく、割合は3.2%向上しているが、購入金額はH28：1,308千円に対しH29：1,618千円と31万円多くなっている。

平成29年度 上半期実績

自己点検・評価

〈 収支状況 〉

(単位：百万円)

区 分	H29年間目標 A	H29上期実績 (推計値) B	H28上期実績 (推計値) C	対H28比 B/C
収 益 (A)	901	397	451	88.0 %
医 業 収 益	726	315	341	92.4 %
うち入院収益	461	195	215	90.7 %
うち外来収益	255	116	121	95.9 %
医 業 外 収 益	172	81	109	74.3 %
費 用 (B)	1,684	739	775	95.4 %
医 業 費 用	1,624	711	748	95.1 %
うち医薬材料費	89	38	48	79.2 %
医 業 外 費 用	57	28	27	103.7 %
収 支 差 (C=A-B)	▲ 783	▲ 342	▲ 324	—
1 日 平 均 入 院 患 者 数	83.0 人	70.9 人	78.5 人	90.2 %
1 日 平 均 外 来 患 者 数	130.0 人	115.7 人	124.5 人	92.9 %

〈 経営指標及び数値目標 〉

区 分	指 標	H29年間目標	上半期目標	上半期実績	達成率	
経営指標	病床利用率	79.0 %	79.0 %	67.5 %	85.4 P	
	精神					
	医業収支比率	44.7 %	44.7 %	44.4 %	99.3 P	
	1日平均患者数	入院	83.0 人	83.0 人	70.9 人	85.4 %
		外来	130.0 人	130.0 人	115.7 人	89.0 %
	1日一人当たり 収益	入院	15,216 円	15,216 円	14,997 円	98.6 %
		外来	8,034 円	8,034 円	8,105 円	100.9 %
	医薬材料費対医業収益比率	12.3 %	12.3 %	12.1 %	101.7 P	
	後発医薬品使用割合	67.0 %	67.0 %	75.7 %	113.0 P	
機能指標	訪問看護件数	2,200 件	1,100 件	1,218 件	110.7 %	
	デイケア件数	8,300 件	4,150 件	3,706 件	89.3 %	
	認知症疾患医療センター新規患者数	170 人	85 人	81 人	95.3 %	

【患者数】

・入院は、在宅医療の推進に伴い、退院患者の再入院が減少したため、対前年度比90.2%となった。

・外来は、デイケア件数が目標を下回ったことから、対前年度比92.9%となった。

【収 益】

・入院は、在宅医療の推進に伴い、退院患者の再入院が減少したため、対前年度比90.7%となった。

・外来は、薬物血中濃度検査料やCT更新に伴う画像診断料の増により収益単価は増加したが、外来患者の減により対前年度比95.9%となった。

【費 用】

・前年8月の移転新築に要した費用の減や、患者数の減に伴う医薬材料費の減により、費用全体で対前年度比95.4%となった。

【経営指標及び数値目標達成に向けた取組】

・後発医薬品使用割合は上半期実績で75.7%と上半期目標を達成しており、今後も年間目標を達成するよう努めていく。

・認知症医療疾患センター新規患者数は81名で、達成率は95.3%のため、今後、市町のイベント参加や出前講座の実施において積極的にPRを行い、新規患者を確保し目標達成に努める。

● 委員会点検・評価

- 入院・外来とも患者数が減少していることから、退院後の訪問看護による在宅支援や、認知症疾患医療センターなどの現行機能を十分発揮しながら、患者を確保すること。
 なお、デイケアについては、新規通所者の確保や退院患者への働きかけを行うこと。

(5) 北見病院

プランの推進を図る取組項目	平成29年度における取組方針	上半期の自己点検・評価
① 患者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・オホーツク圏域唯一の心臓血管外科手術提供医療機関として、手術実施実績を圏域内医療機関に提供するなど当院の医療機能を広くPRする。 ・隣接する北見赤十字病院との連携をさらに強化し、高度・専門医療機能の更なる充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H28手術実績を管内関係医療機関に送付したほか、北見病院のホームページに掲載した。(4/14 35件送付) ・看護週間イベントとして、パネル等展示及びパンフレット配布を実施した。(5/8～12実施) ・北見赤十字病院と指定管理者制度の導入に向けた協議を開始した。
② 組織の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・経営状況を全職員が共有するため、毎月の収支の状況を院内会議等において周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例月の経営推進会議において収支状況及びプラン進行状況を報告し、情報を共有するほか、各セクションの長による院内スタッフへの周知により、全職員を対象に意識向上を図っている。
③ 人材確保と人材育成機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤医の確保に繋がるよう、研修医の積極的な受け入れに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医を3名受け入れた。(4/1～5/31：1名、9/1～30：2名 北見赤十字病院より) ・接遇研修の実施による人材育成の実施 4/18実施 テーマ：～心を形にして届ける接遇～ 参加者：29名 ・看護師確保オープンセミナーの実施 参加者：5名 ・看護師インターンシップの実施 参加者：2名
④ 地域との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・H29.4に新設した地域連携室により、関係医療機関との連携を円滑にすることで、患者数の増加を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係医療機関との連携の円滑化を図った。 北見市医療機関・在宅ケアマネージャー連携会議へ参加し、北見市内の入退院連絡において連携。 紹介患者数244件、逆紹介患者数142件
⑤ 経営の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、診療報酬請求時にチェックシステムを活用した請求内容の疑義確認を実施するなど査定率の改善に取り組むほか、医薬材料に係る単価契約の価格交渉強化や後発医薬品の使用推進に努め、収益の改善と費用の縮減を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックシステムを活用した請求内容疑義確認の強化を図った。(診療報酬査定率1.4%) ・後発医薬品の使用推進に努めた。(後発医薬品採用率：79.5%) ・経費執行状況の前年度比較による増減分析を実施した。

平成29年度 上半期実績

自己点検・評価

〈 収支状況 〉

(単位：百万円)

区 分	H29年間目標 A	H29上期実績 (推計値) B	H28上期実績 (推計値) C	対H28比 B/C
収 益 (A)	1,719	882	723	122.0%
医 業 収 益	1,414	706	560	126.1%
うち入院収益	1,106	535	413	129.5%
うち外来収益	299	168	143	117.5%
医 業 外 収 益	305	167	160	104.4%
費 用 (B)	2,449	1,182	1,131	104.5%
医 業 費 用	2,386	1,142	1,097	104.1%
うち医薬材料費	582	290	223	130.0%
医 業 外 費 用	55	27	27	100.0%
収 支 差 (C=A-B)	▲ 730	▲ 300	▲ 408	—
1日平均入院患者数	34.0人	37.0人	27.5人	134.6%
1日平均外来患者数	65.8人	68.0人	63.8人	106.5%

〈 経営指標及び数値目標 〉

区 分	指 標	H29年間目標	上半期目標	上半期実績	達成率	
経営指標	病床利用率	一般	48.6%	48.6%	52.9%	108.8 P
	医業収支比率		59.3%	59.3%	61.6%	103.9 P
	1日平均患者数	入院	34.0人	34.0人	37.0人	108.9%
		外来	65.8人	65.8人	68.0人	103.3%
	1日一人当たり 収益	入院	89,088円	89,088円	79,046円	88.7%
		外来	18,652円	18,652円	19,901円	106.7%
		医薬材料費対医業収益比率	41.2%	41.2%	41.1%	100.2 P
	後発医薬品使用割合	72.0%	72.0%	79.5%	110.4 P	
機能指標	紹介患者件数	610件	305件	244件	80.0%	
	手術件数	330件	165件	174件	105.5%	

【患者数】

- 入院は、呼吸器科の積極的な患者の確保など、全診療科で前年度を上回り、対前年度比134.6%と大幅に増加した。
- 外来は、北見日赤との連携などにより、前年度を上回る患者数を確保し、対前年度比106.5%となった。

【収 益】

- 入院は、心臓血管外科の手術件数の増、呼吸器科の患者増及び肺がん治療の注射料の増により、対前年度比129.5%と大幅に増加した。
- 外来は、呼吸器科の患者増及び肺がん治療の注射料の増により、対前年度比117.5%となった。

【費 用】

- 手術件数の増に伴う診療材料の購入増及び肺がん治療に要する注射薬等の使用により、医薬材料費は対前年度比130%となったことや、CTの管球交換により医業費用が増加したため、費用全体では対前年度比104.5%となった。

【経営指標及び数値目標達成に向けた取組】

- 積極的な患者確保や手術件数の増加等により、指標の8項目が目標を上回っており、引き続き達成率の維持に努める。
- 紹介患者件数の達成率は目標を下回っているが、患者数は増加傾向にあり、患者から選ばれる病院として圏域内に浸透しつつある。今後も地域連携室による連携強化や、関係医療機関へのPRを継続し、関係医療機関からの紹介患者件数の増に努める。

● 委員会点検・評価

- 新病院の機能を発揮し、前年度を上回る収益を確保した実績は評価。下半期は、引き続き、一層の収益確保に努めること。
- 隣接する北見赤十字病院との指定管理者制度導入に向けた協議を速やかに進め、オホーツク圏域における高度・専門医療提供体制の構築を図ること。

(6) 子ども総合医療・療育センター

プランの推進を図る取組項目	平成29年度における取組方針	上半期の自己点検・評価
<p>① 患者サービスの向上 ④ 地域との連携の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新規入院患者受入のための病床確保や、診療時間外等の重症患者受入体制を確保するため、NICUのあり方や急性期治療から回復期治療への円滑な移行、適正な病床確保について検討を進める。 常時、医療的ケアを必要とする長期入院患者の退院に向け、在宅におけるサービス利用等の実情や課題について検証を進め、退院方策について随時検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 対応策について、病院局と協議を行うとともに、院内の対応方針を協議するため、院内体制検討会議の開催準備を進めている。 緊急時における連携病院の確保に向けて、近隣医療機関に対して協力要請した。(病院局及び当センター) 6月から、在宅重症心身障害児(者)の実態調査を開始しており、年度内に結果を取りまとめ、今後の取組に活用していく。 配布対象数：142部 (今後も対象患者の退院により増加する場合がある。) 配布数：129部 回答数：85部 11月6日現在
<p>② 組織の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経営状況を全職員が共有するため、毎月の収支の状況を院内会議等において周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の管理運営会議、所内会議、医局連絡会議において情報提供し、意識の共有化を図った。 全ての職種が参加する「診療報酬適正化対策WG」を設置し、職員の経営参画意識の醸成を図るとともに、収益の向上策等について検討を進めている。
<p>③ 人材確保と人材育成機能の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 医育大学医局への派遣要請を継続するとともに、当院の診療機能のPRに努め研修医の確保など、中長期的な人材育成も視野に医師の確保を図る。また、薬剤師の確保策や診療応援対応について、病院局と対応を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 医育大学医局への派遣要請等を継続する。 新規採用職員の実績 8月1日付け 保育士1名 9月1日付け 臨床工学技士1名 (薬剤師1名：新規採用予定あり)
<p>⑤ 経営の効率化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の医局連絡会議において、診療報酬の査定状況や査定内容を共有し、審査内容を検証するなど、査定率の改善の取組により、収益の確保を図る。 医療機器について、良質な医療が提供できるよう、使用状況や老朽度等を勘案し、計画的に更新していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の医局連絡会議において情報提供し、収益の確保に向けた意識の共有化を図った。 老朽更新が必要な医療機器が多く対応に苦慮しているが、今年度予算化されたものについては、順次、入札等の購入事務を取り進めている。

平成29年度 上半期実績

自己点検・評価

〈 収支状況 〉

(単位：百万円)

区 分	H29年間目標 A	H29上期実績 (推計値) B	H28上期実績 (推計値) C	対H28比 B/C
収 益 (A)	2,973	1,226	1,313	93.4 %
医 業 収 益	2,751	1,125	1,212	92.8 %
うち入院収益	2,120	861	935	92.1 %
うち外来収益	602	253	265	95.5 %
医 業 外 収 益	222	100	101	99.0 %
費 用 (B)	4,188	1,933	1,933	100.0 %
医 業 費 用	4,060	1,857	1,856	100.1 %
うち医薬材料費	681	265	273	97.1 %
医 業 外 費 用	105	51	53	96.2 %
収 支 差 (C=A-B)	▲ 1,215	▲ 707	▲ 620	—
1 日 平 均 入 院 患 者 数	73.5 人	67.7 人	66.7 人	101.5 %
1 日 平 均 外 来 患 者 数	166.3 人	160.5 人	161.3 人	99.5 %

〈 経営指標及び数値目標 〉

区 分	指 標	H29年間目標	上半期目標	上半期実績	達成率	
経営指標	病床利用率	一般	74.2 %	74.2 %	68.4 %	92.2 P
	医業収支比率		67.8 %	67.8 %	60.6 %	89.4 P
	1日平均患者数	入院	73.5 人	73.5 人	67.7 人	92.1 %
		外来	166.3 人	166.3 人	160.5 人	96.5 %
	1日一人当たり 収益	入院	79,016 円	79,016 円	69,514 円	88.0 %
		外来	14,838 円	14,838 円	12,723 円	85.7 %
		医薬材料費対医業収益比率	24.8 %	24.8 %	23.5 %	105.4 P
	後発医薬品使用割合	72.0 %	72.0 %	73.6 %	102.2 P	
機能指標	紹介患者件数	760 件	380 件	383 件	100.8 %	
	新生児特定集中治療室における他の周産期母子医療センターからの受入率	50.0 %	50.0 %	48.3 %	96.6 P	

【患者数】

- 入院は、心臓血管外科や小児外科の紹介患者が減少したものの、小児科の神経内科や耳鼻咽喉科では増加し、対前年度比101.5%となった。
- 外来は、脳神経外科やリハ整形の紹介患者が減少したものの、昨年度下半期から外来診療日を拡大した精神科のほか、小児科及び産科で紹介患者が増加し、全体では前年度並で推移している。

【収益】

- 入院は、患者数が増加した小児科や耳鼻咽喉科において増加したものの、心臓血管外科や泌尿器科で手術数が減少したため、対前年度比92.1%となった。
- 外来は、精神科や循環器科で1日一人当たり収益が増加したものの、小児科が下がったため、対前年度比95.5%となった。

【費用】

- 医薬材料費は、後発医薬品使用割合が73.6%と目標を達成した影響もあり、対前年度比97.1%となったことなどから、費用全体は前年度並みとなった。

【経営指標及び数値目標達成に向けた取組】

- 後発医薬品の使用割合の目標を達成したことから、医業収益に対する医薬材料費の比率が下がったことにより、医薬材料費対医業収益比率は目標を達成し23.5%となった。
- 紹介患者件数は、紹介元医療機関等の確保や出前講座・公開講座の実施に努め、上半期目標を達成した。

● 委員会点検・評価

- 新規患者や看護必要度の高い患者の受入について、ベッドコントロールや病床の運用方法の検証などを行い、ニーズに応じた機能が効率的に発揮されるよう、必要な検討を進めること。

第3章 全体評価

1 上半期実績

収 支 状 況					経 営 指 標							
〈 事業合計（医療分） 〉 (単位：百万円)					〈 事業合計（医療分） 〉							
区 分	H29年間目標 A	H29上期実績 (推計値) B	H28上期実績 (推計値) C	対H28比 B/C	区 分	指 標	H29年間目標	上半期目標	上半期実績	達成率		
収 益 (A)	9,910	4,279	4,541	94.2 %	経営指標	病床利用率	全体	68.8 %	68.8 %	53.2 %	77.3 P	
医 業 収 益	8,734	3,644	3,878	94.0 %			一般	64.7 %	64.7 %	51.1 %	79.0 P	
うち入院収益	5,759	2,307	2,468	93.5 %			精神	73.6 %	73.6 %	55.7 %	75.7 P	
うち外来収益	2,837	1,278	1,340	95.4 %		経常収支比率		99.7 %	99.7 %	99.2 %	99.5 P	
医 業 外 収 益	1,158	614	638	96.2 %		医療収支比率		58.7 %	58.7 %	53.6 %	91.3 P	
費 用 (B)	15,467	7,104	7,100	100.1 %		1日平均 患者数	入院	合計	416.0 人	416.0 人	323.4 人	77.7 %
医 業 費 用	14,890	6,794	6,780	100.2 %				一般	208.0 人	208.0 人	166.5 人	80.0 %
うち医薬材料費	2,049	857	874	98.1 %				精神	208.0 人	208.0 人	156.9 人	75.4 %
医 業 外 費 用	526	257	269	95.5 %			外来	1,057.0 人	1,057.0 人	965.4 人	91.3 %	
収 支 差 (C=A-B)	▲ 5,557	▲ 2,825	▲ 2,559	—		医薬材料費対医療収益比率		23.5 %	23.5 %	23.5 %	100.0 P	
1日平均入院患者数	415.6 人	323.4 人	373.5 人	86.6 %								
1日平均外来患者数	1,056.6 人	965.4 人	1,027.9 人	93.9 %								

2 自己点検・評価

各道立病院では、「北海道病院事業改革推進プラン」に基づき、経営改善に向けた取組方針を策定し、具体的な取組を進めているが、上半期の収支状況について、収益は常勤医の欠員などにより入院及び外来患者数が前年度を下回り、医療収益は減少している。費用については、江差病院で電子カルテの更新や北見病院でCTの管球交換により経費は増加したが、概ね前年度と同程度となっている。

病院別の状況については、

- ① 循環器・呼吸器疾患の高度・専門病院である北見病院については、手術件数の増などにより、患者数・収益とも前年度を上回った。
- ② 小児の高度・専門医療機関である子ども総合医療・療育センターについては、入院患者数は増加しているものの、1日一人当たり収益の高い心臓血管外科が患者減となり、収益は前年度を下回った。
- ③ 精神科2病院のうち、緑ヶ丘病院においては、精神科救急入院（スーパー救急）病棟が高い稼働率を維持し、外来の退院後通院患者及び訪問看護も前年度と同程度であるが、国の「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本理念に基づき、長期入院患者の退院促進により入院患者数が減少し、収益は前年度を下回った。

また、向陽ヶ丘病院においては、訪問看護件数などの増により1日一人当たり収益は前年度から増加しているが、長期入院患者の退院促進により入院患者数が減少し、収益は前年度を下回った。

- ④ 地域センター2病院のうち、江差病院においては、常勤医が2名から1名に減少した消化器科を中心に患者数が減少した一方で、一般病棟入院基本料を13:1から10:1に変更したほか、8月から地域包括ケア病床を整備し増収を図ったが、医業収益は前年度を大きく下回った。

また、羽幌病院においては、地域包括ケア病床により入院患者数は増加したものの、外来患者数は減少したため、医業収益は前年度を下回った。

下半期に向けては、人材確保対策室において、引き続き、医育大学や医療関係団体への医師派遣要請、採用試験の拡大による医療従事者の確保を行うとともに、本年度から新たに設置した地域連携室を窓口として、医療機関や福祉サービス事業者との連携による患者紹介の働きかけや患者受入の取組を強化するなど、収益の確保に積極的に努めるほか、費用の縮減と合わせ、収支改善に向けた取り組みを確実に進めていく。

3 委員会点検・評価

- 上半期は、北見病院で隣接する北見赤十字病院との連携強化を図ったことや、江差病院で地域包括ケア病床が稼働するなど、一定の取組を実施したものの、目標を達成できていない状況にある。
- 医師を含む医療従事者の確保について、本年度から本庁に人材確保対策室を設置し、選考職の年齢要件の緩和や、通年募集及び臨時試験の実施、指導医手当の新設、総合診療医の研修プログラムの策定など、新たな取組を進めていることは評価する。
引き続き、地方公営企業法の全部適用への移行によるメリットを活かした人材確保策に取り組むこと。
- プランの数値目標に達していない病床利用率などの向上に向けた対策を強化するとともに、患者確保による収益増に加え、ホームページを活用した病院受診につながる情報発信など視点を変えた収益確保対策や、患者の療養環境に配慮した費用の縮減など、道立病院局が一丸となった取組を進めること。